

発行責任者  
公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会  
湘南支部長 清崎 忠園  
平塚市豊原町 23 - 14  
Tel : 080-1174-8224

# 隊友

## 湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

「富士総合火力演習」を体感して  
特別会員 中根 圭介  
今年の富士総合火力演習は5月26日(土)に実施された。

特別会員(湘南支部)の中根圭介と栗田恵子は、清崎忠園支部長の紹介で、21日に行われたリハーサル1回目を見学する機会を得た。

両名とも『総火演』はメディア等では知るものの、実地ではじめての体験である。もちろん陸自の最新装備を見たいのもあったが、我々二人は元日の能登半島地震の被災地で「生活用水支援」をすべく1月2日に出発し3日以降、被災地に入った

こともあり、被災地のいたるところで目にした陸自の隊員さんたちの活躍ぶりから、彼らの鍛えられた動きにも興味があった。  
演習は2部制で、前段は各火器・火砲の性能実演、後段は敵陣攻撃を想定し諸職種が連携して火力戦闘を繰り広げる様子を見ることのできた。

能登での活動とつながったのは、演習開始前に会場を自衛隊と民間の多数の散水車で埃止めしていた様子は、被災地での「給水支援」を思い起こさせた。また大型、中型ヘリから隊員がロープで降下する様子は、おそらく孤立した集落などから住民を救助するのに生かされたであろう。

そして主役の戦車は予想以上に高速で走り廻り、砲の発射では体がビクツとするほどの空気振動と轟音に驚かされた。装甲車も小回りが利き、各車両や牽引式の大砲からも矢継ぎ早に砲弾が放たれ、目標の標識に命

中していたようである(どこを狙っていたかが判らなかったが、同じゾーンに固まって命中していたので、狙い通りだったと思われる)  
空からはヘリの他にオスプレイやジェット戦闘機も参加、そして2機のドローンも上空からの映像を高速移動しながら会場の大型スクリーンに送ってきた。

キビキビとした演習を見ながら、ウクライナ、ガザの様子を思った。破壊され瓦礫と化した街、血だらけで笑顔のない子供たち、何のためにあんなことになったのか、悲しみしかない。  
同じようなことが決して起きないよう、平和について大局から考える貴重な機会となった。

そのために尽力されている自衛隊員の皆さまに、あらためて敬意を表すとともに、機会をくださった関係各位に御礼申し上げます。



10式戦車 120mm 滑空砲



CH-47JA からロープ降下

### 令和6年度隊友会湘南支部

総会・防衛講演会及び懇親会を開催

支部理事役 高鹿 治雄

隊友会湘南支部は、5月25日(土)に藤沢市商工会館ミナパークにて令和6年度支部総会(約30名)

防衛講演会(約40名)及び懇親会(約30名)を開催した。

総会は、国家斉唱、昨年度逝去された会員に対する黙祷、支部長挨拶のあと田中理事役を議長へ選出し議事に入り「令和5年度支部活動・同決算」報告がなされ、次いで「平成6年度支部活動計画・同予算」及び「支部役員の改選」の3議案が提議され、それぞれ満場一致で承認された。最後に支部長により感謝状の贈呈が特別会員尾上洋一氏、同左奈田幸一氏、同堀岡忠重氏にそれぞれ行われた。なお欠席の高橋理事役に対する表彰状、特別会員井岡成吉氏、同高原正彦氏への感謝状は郵送により、特別会員木村俊雄氏(現寒川町長)へは寒川町役場に於いて支部長から直接木村氏へ贈呈が行われた。

総会終了後、特定非営利活動法人日本核シェルター協会 川嶋隆寛氏による防衛講演会が「海外の事例にみる民間防衛とシェルターについて」と題して行われた。講師は「そもそも日本には法令上、制度上も核シェルターは存在しない」我が国の特殊性に触れながら、他方最近の国際情勢から核シェルター建設を国家事業とするグローバルな時代の流れをととめ分り易く話された。レジメに沿って「日本核シェルター協会」の設立経緯、そして最近の「日本核シェルター協会の活動」について活動分野毎に具体的に説明された。本講演会は「そもそも核シェルターとは何か?」という基本的な定義・位置付けも存在しない日本を念頭に置きながら、「世界に目を向けると「各種シェルター」をCivil Defens(民間

防衛、市民防衛、国民保護)の中核として法令で位置付けて国家の主要事業としているシェルター整備を推進する海外(主に欧州)の事例を詳しく紹介した内容だった。海外の事例をみていると正に危機感の全くな日本のシェルター整備の現状と課題を痛感すると共に日本はこれで大丈夫なのか?と参加者の危機感が大いに高まる素晴らしい内容であった。本講話を聞いて、日本の安全保障政策や国民を守るために今何をすべきか?に対して漠然と不安を抱いていた当支部会員は、目からうろこが落ちるような衝撃とともに我々も今からでもできることから始めなければと多くの方が気づかされたのではないのでしょうか。本講演の内容につきましては「令和6年度防衛講演の内容要約」として次項に掲載していますので、一読下さい。

防衛講演会に引き続きコロナ禍後初めて開催の懇親会は、星野剛士衆議院議員、松長泰幸県議会議員、本日の講師川嶋貴裕氏はじめ来賓多数のご出席のもと、坂西厚隆新特別顧問による乾杯で始まった。講師を務められた川嶋氏の周りは核シェルターに関する各種の話を伺いたいとの参加者の輪をなしていた。盛り上がった懇親会も府川太郎支部相談役の中締めにより、令和6年度総会・防衛講演会・懇親会の一連の行事が無事終了した。なお本総会、防衛講演会及び懇親会に対し次の方々から祝電を頂戴しました事、感謝の気持ちと共にお名前をご披露致します。  
・国務大臣衆議院議員 河野太郎様、平塚市長 落合克宏様、茅ヶ崎市長

佐藤光様、県議会議員市川和広様、ありがとうございます。

「令和6年度防衛講演の内容要約」

Civil Defense の一部としての核シエルトの定義・位置付けや具体的な事例を平和で美しいイメージのスイス連邦を中心に話されましたが、それらの根拠が1945年8月に世界で最初に日本の広島や長崎に投下された原子爆弾の被害調査やネバダや太平洋での核実験、さらには1962年に実施された高高度核爆発実験の結果をまとめた「核兵器の影響」レポートと知りショックを受けた。「The Effects of Nuclear Weapons」(研究成果レポート)には、核爆発の一般的な原理から、空中及び地表爆発によるエアブラストと地表や地下への衝撃効果、爆風による被害影響、熱放射と火災の影響、初期放射線による人体への影響、誘導放射線による被害影響、放射性降下物による被害影響までがまとめられているとともに、高高度核爆発による電磁パルス(EMP)の発生とその被害影響に関する考察も記されている。

シエルトの目的は国民の命を守ること！であり、核攻撃の際に国民の命を守れないと意味がない！とされ、国民の命を守るため「建設時の仕様」から「使用する備品の規格化」「避難指針、運用から点検までの要領」等が詳細に定められているのが海外の常識である。川嶋氏がスイスをはじめ多くの諸外国の核シエルト等を見学した際に良く質問されるエピソードが紹介された。それは世界で最初に原子爆弾を投下された日本、それも広島と長崎にそれぞれ異なる原子爆弾を二つも落とされた「日本に何故ひとつも核シエルトがないのか？」という素朴な質問でした。国民を守るために当然のように核シエルトを公共

施設として整備する海外の方が「なぜ日本には核シエルトがないのですか？」と質問したくなる気持ちは良く理解できる。一方、それに対して我々日本人はどう答えれば良いのでしょうか。「平和憲法があるから日本は大丈夫だから」「日本には自衛隊はあっても軍隊はないのもう戦争をしませんから」「何があっても勤勉で真面目な日本人は何とか乗り越えますから」等、自問自答して空しくなります。

冷戦時代の1967年以降新設された建築物にはシエルトの設置が義務づけられていたスイス連邦でさえ、冷戦後の2011年には義務化は停止され、「シエルト不要論」が起きたそうです。多額の国費で設置したシエルトを2011年以降、民間に売却されデータセンター化したそうですが、ウクライナ侵攻を受けて、2023年9月に売却は停止、古いシエルトを慌てて再整備に着手した。ウクライナ侵攻という世界情勢の変化を受けて、スイス連邦はシエルト設置の再義務化、より厳しい基準への変更へ再び大きく舵を切ったことを強調された。最後に「日本のシエルト整備の現状と課題」について、詳細に説明してくれましたが、どれも日本の国民として納得できない内容ばかりで、恥ずかしさのあまり居たたまれない思いがした。

本講演会に参加するまでは、シエルトについて生半可な知識と日本でシエルト整備が進まないのは政治と金の問題だろうと思っていたが、日本核シエルト協会は、「日本のシエルト整備の現状と課題」を直視し、「核シエルトの正しい知識の普及」を目指して①核シエルト建設の基準策定及び情報共有。②日本唯一の核シエルトモデルームを開放して核シエルトの存在を普及啓蒙。③核攻撃の影響を防ぐための建築物・設備の研究。④スイスの企

業や特派員による欧州の最新シエルト情報の共有。⑤核シエルト、核攻撃、民間防衛に関する情報の発信。⑥政府・自治体のシエルト整備への協力等を行っており、日本の硬直した現状をできることから変えていこうとする未来志向の将来戦略は実に頼もしい。

最近、核シエルトの研究・開発の一環として、政府から研究者にシエルト整備に関する研究を委託(2019年)、政府・自治体のシエルト整備への協力の一環として、自民党シエルト議員連盟の事務局補助。一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会と「災害大国日本における有事に備えた地下シエルトに求められる性能・仕様の在り方検討ワーキンググループ」を設立し、今後、内閣総理大臣へのシエルト整備のための最終提言書を提出する予定も紹介された。特に、わが国が弱いとされている官公庁分野のシエルト整備事業をサポートしようとする力強い活動内容に当支部の会員は大いに勇気づけられた。(以上)

転居、電話、メールアドレス等に関する新しい連絡先通報の依頼

最近、隊友会湘南支部による隊友紙の発送等において、宛先不明による返送の問題や「この電話番号は現在使われておりません」等の問題が生じています。それを防止するため、転居等の際には、新しい住所、電話番号等の連絡を隊友会湘南支部に対しても行われるようお願いいたします。

最新の住所、電話番号、メールアドレス等の把握は、各種の支部からのご案内の経費的にも無駄のない事にも繋がります。更に隊友会湘南支部による支部会員の安否確認にも必要となる情報です。各

種の支部活動の円滑な運用のために宜しくご協力お願い致します。

(連絡先)

- ・ 湘南支部会員担当理事役 田中 了
- ・ 〒251-0032
- ・ 藤沢市片瀬 360-10 B-506
- ・ メール: [tajihim@yahoo.co.jp](mailto:tajihim@yahoo.co.jp)
- ・ 電話: 0466-28-9787
- ・ 携帯: 090-3080-1644

令和6年度年会費納入者(順不同・敬称略)

湘南支部長(六月五日現在)  
次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

特別会員

- 塚本昌紀、
- 協力会員

終身(寄付者)

- 岩岸久子
- 松尾捷太郎、寺中哲夫、

令和6年度表彰状・感謝状の贈呈(敬称略)

次の通りそれぞれ贈呈されました。おめでとございます。深澤編集長

支部長表彰状(理事役1名)

- 高橋祥子
- 支部長感謝状(特別会員6名)
- 井岡成吉、尾上洋一、木村俊雄、
- 左奈田幸一、堀岡忠重、高原正彦
- 会長長表彰状(理事役1名)
- (以上)

「支部の予定」

- ・ 07/06 (土) 第4回支部理事役会
- ・ 07/18 (木) 7月隊友紙発送
- ・ 08/03 (土) 第5回支部理事役会
- ・ 08/中旬 部隊研修
- ・ 08/15 (木) 8月隊友紙発送
- ・ 09/14 (土) 第6回支部理事役会
- ・ 09/19 (木) 9月隊友紙発送